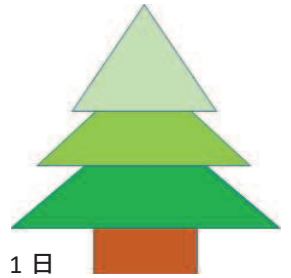




嵯峨宮頼り

第7号



嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

発行日：2019年10月1日

発行：嵯峨宮世話人会

令和元年度 秋季大祭 のお知らせ

嵯峨宮令和元年度の秋季大祭の日程は次のようになります。

日程

十月十三日(日)

七時・旗立て(氏子)

九時・草刈・清掃(役員)

十一時・祝詞(宮司・役員)

十月十四日(月・休日)

九時・飾付け(役員)

午後・祭受付開始

十月十五日(火)

十二時・祭お開き

十月二十日(日)

七時・旗降し(氏子)

尚旗立ては雨天の場合中止、旗降しは雨天の場合翌週二十七日(日)に延期します。

旗立て・旗降しは例年昭和会より案内しておりましたが、本年は嵯峨宮より氏子の皆様に依頼することになりました。人数不足

が予想されますので氏子の男性の方は是非参加してください。

奉納台(お供え台)設置

嵯峨宮には今まで奉納台がなく、御宮参りなどで赤飯や果物等をお供えする際、戸口に置かざるを得ず、皆様には不都合を御座います。そこで役員の手作りですが奉納台を製作しました。



裏



表

上蓋を開けると「奉納」の字が正面から見えるようになります。赤い天板の上にお供え物をお供えください。台の中には皿・紙皿・タオル等が納めてあります。必要に応じて取り出しお供え物をお供えして奉納台の上にお供え下さい。きれいにお使い頂ければ幸いです。

県、文化財調査に来る

九月十九日、群馬県教育委員会文化財保護課よりみどり市教育委員会を通じて群馬建築士会が当社の調査を行いました。主に建築物や彫刻を中心に調査されました。良い方向に行くことを願っています。

第二回 埋蔵祈願式 十二月十五日(日)

令和元年度の埋蔵祈願式は十二月十五日(日)に行う予定です。本年も祈願される方は記願書に祈願文を書き込み、祈願料千円と共に封筒に同封して、十二月十三日までに神社のお賽銭投入口へ投入して頂ければ埋蔵祈願させていただきます。祈願書や封筒は神社に備えてありますのでご利用ください。小平にお住いの方には役員より伺わせて頂きます。



覆屋「床」修繕完了

頼り第5号に「床板がボロボロなので修繕する」と書いたが、このほど漸く完了した。

祭のたびに腐朽の床を横眼で見ながら素知らぬ態で祝詞を上げ酒を酌み交わすことに後ろめたさがあった。業者に修繕を依頼できる費用はなく氏子に寄付を募ることも難しい。「自分達でやればできるんじゃないの。」腹は決まった。なぜこんなにボロボロになったのか、過去を否定することから始まる。数十年前迄覆屋側面は一枚ごとに間を空けた板張りだったが、お籠りする時寒いとの理由で上からトタンで覆った。山の一部分を削って平にしただけの境内は水気が多い。周囲に側溝も無く雨が降ると覆屋内に水が浸み込む。土の上

に石を置いて土台を載せただけの昔の建築方式は湿気が上がり腐りやすい。トタンで覆われ屋外に湿気を出せない社殿はシロアリの餌食となった。床は全て腐れ落ち、本殿すら一部は腐り柱が落ちていた。



修繕前の床

土台は腐り床が落ちている

全てはこの床修繕から始まった。一事が万事、過去に拘らず将来を見据え、在るべき姿を描き進める。自分達でやればできる。最大の難関は床材の栗板だがとても買えない。どうしたものかと思案していたら山同家の蔵を解体する話が耳に入る。蔵の内壁は栗板が使われており、産廃にするよりはと戴けるこ

とになった。二百年前のモノだが光沢すら残り、和釘で鉄板と格子状に止められている。土蔵破り対策だ。三月寒さが緩んだ頃役員と釘抜きし床材ができた。土台となる大引きと根太は「神社のことじゃなあ」と友が面倒見てくれた。使ってくれとブロックを提携してくれた人もいた。設計施工は「頼り第2号」紹介の「語らざる」製作者星野哲男氏、ボランティアで快く引き受けて頂いた。乾燥のため床下を10cm掘り下げ、覆屋左右側面に天窓を設け、空気の流れを作る。



古銭、銅銭、鉄銭
右2列、左1列

土台の支えはコンクリート台と鋼製束を組み合わせる。コンクリート台は十個取りの型枠を作り、切った長ネジを吊るしてコンク



大引き、コンクリート台、鋼製束、床板、根太

リートを流し込むお手製だ。床板は栗板四枚で90cm角板とし、隣りの床板と組合せる爪を取付ける。床板・根太・大引きにはたっぷりと防腐剤を塗布、数年後のメンテナンスが容易に出来るよう床板は釘で止めず爪を組ませて置くだけ、だが外れない。星野のアイデアだ。

七月末現場作業を始め、て間もなく台風の余波を受け強い雨が降った。覆屋の床下には水が浸透し作業中止。床下を更に15cm掘り下げ、社殿の周囲には側溝を緊急手掘りする。山から水がどんどん浸み出していた。山を切り崩しただけだから雨が降る度に土が崩れてくる、が今は手が出せない。

八月末作業再開、まだ暑

い。水分補給用ペットボトルのお茶一本で連日の作業も十二日で終了、最後の床スチーム雑巾掛けは奥様がやってくれた。



修繕後の床

掛かった費用は釘・ネジ・ナット・ボンド・セメント・鋼製束・防腐剤などとお茶一箱で合計3万円、自分達でやったからできた。でも「暑いでしょう」と冷たいお茶を差し入れてくれた人を忘れない。

床修繕は床だけでは治らない。側溝を設け、削った山の斜面、傾く覆屋の修繕も必要でまだこれから。文化財調査に来た一人が言った。「本当に苦労しているんですね。」(阿直)